

我孫子市鳥の博物館調査研究報告第12巻：121-134 (2004)

## 岡発戸・都部の谷津田鳥類センサス調査結果報告Ⅰ (2000年4月-2003年3月)

斉藤安行<sup>1</sup>・時田賢一<sup>1</sup>・塩田いづみ<sup>1</sup>・竹牟禮悦子<sup>2</sup>

キーワード：岡発戸，我孫子市，千葉県，鳥類センサス，谷津田

### はじめに

我孫子市鳥の博物館では，我孫子市大字岡発戸と都部にまたがる谷津田（以下「岡発戸・都部の谷津田」と呼ぶ）を調査地とし，鳥類の生息状況を把握する目的で2000年4月以来センサス調査を継続している．これまでの調査結果をまとめ報告する．

谷津田は，細長い谷底低地（谷津）に発達する水田のことで（武内 2001），稲作が始まった2千年前から延々と変わらずに維持されてきた土地利用の形態である（我孫子市 2001）．

岡発戸・都部の谷津田は，我孫子市内では谷津田の原風景が唯一残っている貴重な環境であり（我孫子市 2002），2003年から我孫子市により，谷津田の保全と活用を図るための「我孫子市谷津ミュージアム構想事業」が開始された場所である．

### 調査地と調査方法

調査地は，千葉県我孫子市大字岡発戸および大字都部にかかる谷津田で，谷底兩岸の歩道に沿ってセンサスルートを設置し調査した（図1）．

谷底は，水田と放棄水田の面積がそれぞれ4割ずつで8割を占め，残り2割が畑や盛土となっている．谷底の中央をコンクリート護岸された水路が流れ，手賀沼に注ぐ放水路となっている．放棄水田は，スゲあるいはヨシやオギ，湿潤な場所にはガマが繁茂している．

谷の右岸側斜面はサクラ，マテバシイ，スギ，ヒノキなどの植栽樹林を隔ててゴルフ場に隣接する．ゴルフ場内には高木のアカマツ

林が散在する．右岸側の斜面には，シラカシやスダジイの常緑広葉樹林が分布するほか，コナラ，クリ，ケヤキ，エノキ，イヌシデ，ムクノキなどの落葉広葉樹の高木が見られる．斜面裾の林縁部はアカメガシワなどのマント群落で覆われている．

斜面上部の台地にはスギ・ヒノキ植林と畑が分布する．

センサス調査は，谷津田内に設定したセンサス・ルートに沿って，時速約2kmで歩き，8倍双眼鏡と30倍地上望遠鏡を使い，設定した範囲内に（センサスルートから山側は斜面上部まで，谷側は中央を流れる水路まで）出現した鳥の種類と数を記録した．

調査は，毎月1回行った．調査時間と天候等は巻末に一覧表として付した（付表5）．

### 調査結果

・出現種数・個体数について

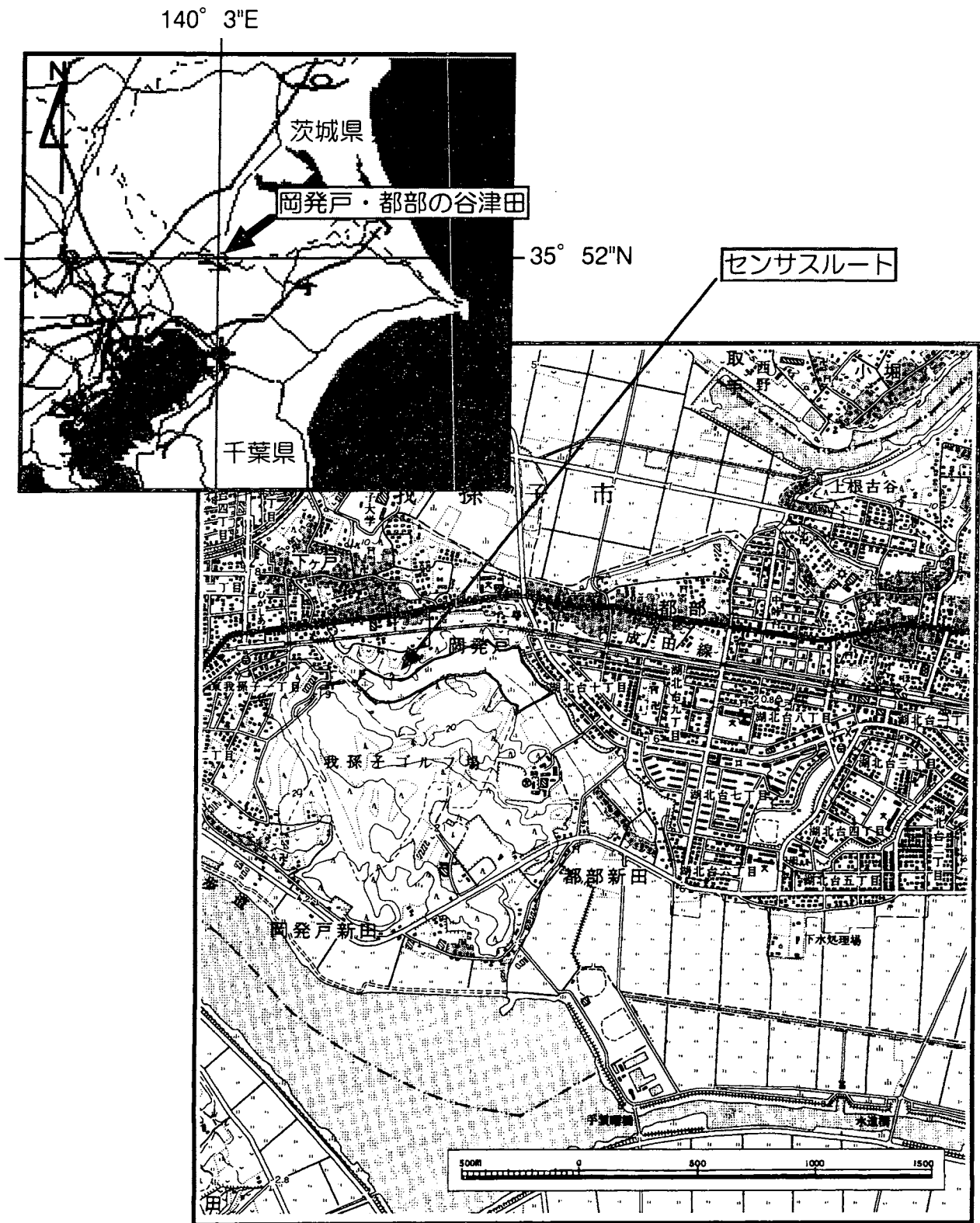
2000年4月から2003年3月までの3年間のセンサス調査の結果は，9目25科60種の鳥類を確認した（表1）．各年の月別のセンサス結果は付表1～4のとおりである．

観察年数による出現種数の増加率は，2年目は21%，3年目には5%の増加であった（図2）．

出現個体数と種数の月変化を比べると（図3），出現種数は10月（2001年）あるいは11月（2000年，2002年に最大，7月に最少であった．出現種数は，11月あるいは12月に最大，8月あるいは9月に最少であった．個体数，種数とも冬期に多く，夏期に少ない傾向があった．

1 〒270-1145 千葉県我孫子市高野山234-3 我孫子市鳥の博物館

2 （～2000）我孫子市鳥の博物館 （現）愛媛県常滑市



国土地理院発行1/25,000地形図（取手）より引用

図1 岡発戸・都部谷津田鳥類センサスルート位置図

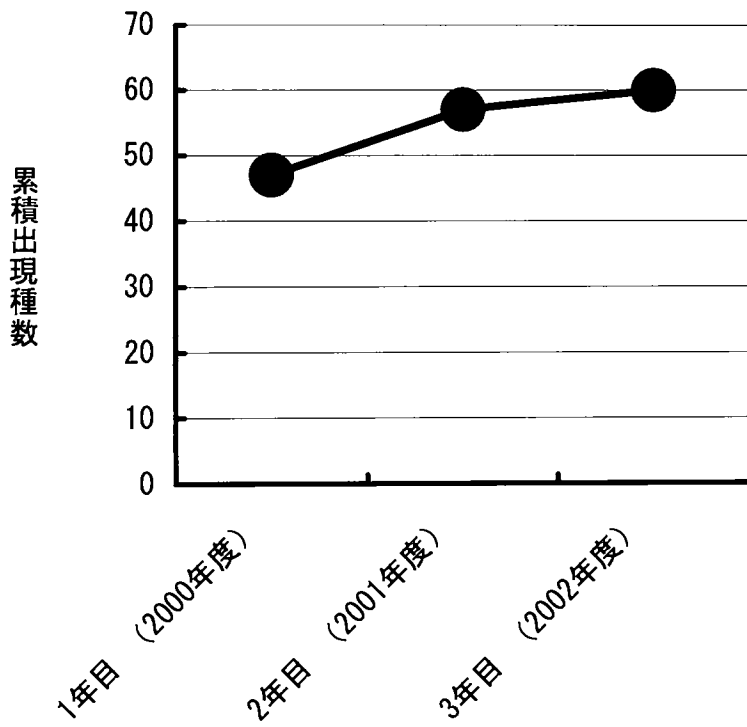


図2 累積出現種数

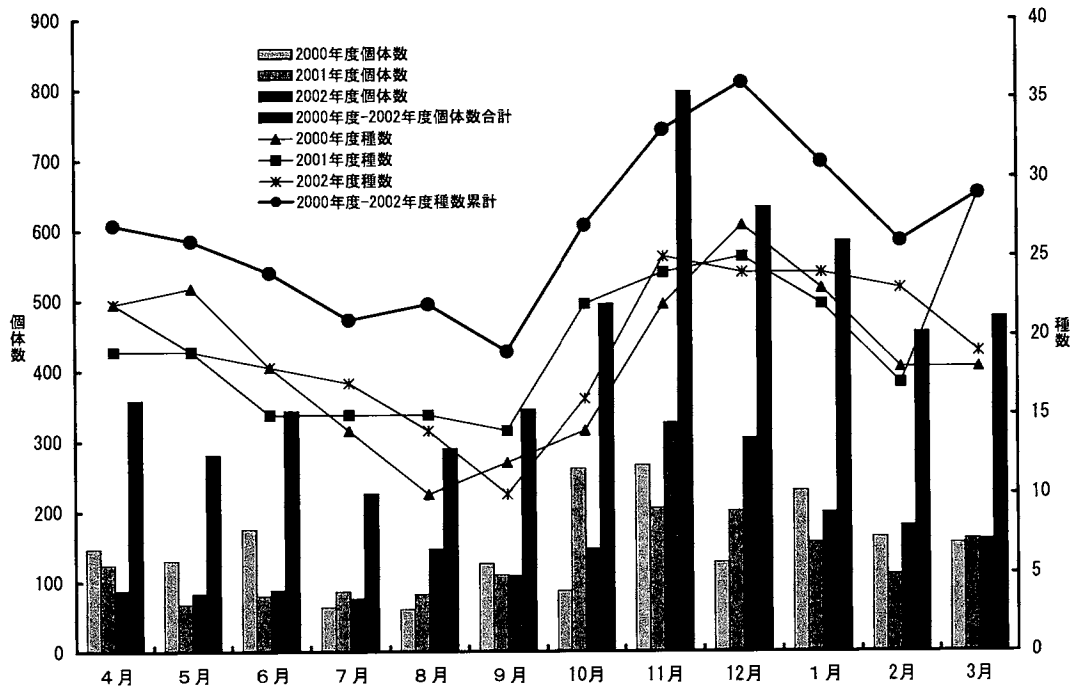


図3 出現種数と個体数の月変化

表1 岡発戸・都部谷津田鳥類センサス調査出現種

目	科	種		
コウノトリ目	サギ科	ゴイサギ		
		アマサギ		
		ダイサギ		
		チュウサギ		
		コサギ		
		アオサギ		
タカ目	タカ科	カルガモ		
		オオタカ		
		ノスリ		
		サシバ		
		ハヤブサ科	チョウゲンボウ	
キジ目	キジ科	キジ		
チドリ目	チドリ科	コチドリ タゲリ		
	シギ科	クサシギ タシギ		
		キジバト		
	ハト目	ハト科	キジバト	
ホトトギス目	ホトトギス科	カッコウ ホトトギス		
ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ		
キツツキ目	キツツキ科	アリスイ アカゲラ コゲラ		
		ツバメ科	ツバメ	
		セキレイ科	キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ タヒバリ	
			ヒヨドリ科	ヒヨドリ
モズ科	モズ			
ツグミ科	ジョウビタキ トラツグミ アカハラ シロハラ ツグミ			
	ウグイス科	ウグイス オオヨシキリ セッカ		
		ヒタキ科	サンコウチョウ	
	エナガ科	エナガ		
スズメ目	シジュウカラ科	シジュウカラ		
	メジロ科	メジロ		
	ホオジロ科	ホオジロ カシラダカ アオジ クロジ オオジュリン カワラヒワ		
		アトリ科	マヒワ ベニマシコ シメ	
			ハタオリドリ科	スズメ
			ムクドリ科	ムクドリ
		カラス科	カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス	
	帰化鳥 (キジ目キジ科)		コジュケイ	
	外来種 (ハト目ハト科)		カワラバト (ドバト)	

9目25科60種

(リストは日本鳥類目録第6版に準拠)

・優占種について

年間通じ出現個体数の多い種を比べると(表2)上位10種は、スズメ(22%)、ヒヨドリ(12%)、アオジ(8%)、ムクドリ(7%)、ホオジロ(7%)、カシラダカ(7%)、ツグミ(4%)、キジバト(4%)、メジロ(3%)、ハシブトガラス(3%)であり、これらで全出現個体数の約8割を占めた。

季節をそれぞれ春(3, 4, 5月)、夏(6, 7, 8月)、秋(9, 10, 11月)、冬(12, 1, 2月)に分け、季節別に優占種上位10種を比べた(図4)。

春期は、アオジ(13%)、ムクドリ(12%)、ヒヨドリ(9%)、ホオジロ(8%)、スズメ(8%)の順に優占、夏期は、スズメ(27%)、ムクドリ(20%)、ヒヨドリ(9%)、ホオジロ(8%)、ハシブトガラス(4%)の順に優占、秋期は、スズメ(36%)、ヒヨドリ(19%)、ハシブトガラス(5%)、ツグミ(5%)、キジバト(4%)の順に優占、冬期は、アオジ(16%)、スズメ(14%)、カシラダカ(13%)、ホオジロ(8%)、メジロ(5%)の順に優占していた。

スズメ、ヒヨドリは四季を通じて優占上位5種に入っていた。また、ホオジロ、キジバトは、四季を通じて上位10種に入っている。

その他、冬期には、アオジ、シメ、ツグミが優占しているのが特徴的であった。

### 考 察

毎月のセンサス調査結果から、生息個体数や種数の相対的な月変化の状況など、調査地の鳥類の生息状況の概要は把握できたものと思われる。

3年間の調査の結果、9目25科60種の鳥類が出現したが、1年目から2年目の増加率が21%、2年目から3年目の増加率が5%と、増加率は減少したが、調査回数の増加とともにまだ出現種数が増加しており、潜在的な鳥相を把握するためにはまだ調査の継続が必要と考えられる。

個体数・種数の月変化を比較すると、冬期に多く夏期に少ないことから、調査地域は鳥類の越冬地として、多くの鳥に利用されている。鳥類の繁殖地としての利用状況については、まだ十分な情報が無く、今後の調査が必

表2 種別個体数の優占順位  
(200年度-2002年度)

個体数 優占順位	和名	出現個体数 割合 (%)	出現個体数 累計 (%)
1	スズメ	22	22
2	ヒヨドリ	12	34
3	アオジ	8	43
4	ムクドリ	7	49
5	ホオジロ	7	56
6	カシラダカ	4	61
7	ツグミ	4	65
8	キジバト	4	68
9	メジロ	3	72
10	ハシブトガラス	3	75
11	カワラヒワ	3	77
12	シメ	2	80
13	ウグイス	2	82
14	ハクセキレイ	2	83
15	モズ	2	85
16	ハシボソガラス	2	86
17	ツバメ	1	88
18	シジュウカラ	1	89
19	コゲラ	1	91
20	キジ	1	92
その他		8	100
計		100	

要である。

調査地の谷津田には、谷斜面の樹林、水田、放棄水田の成立したヨシ原、林縁部の灌木等多様な環境がある。1988年から1998年まで過去10年間の近隣地域での環境区別のセンサス調査の結果（斉藤ほか未発表）、水面環境で67種、ヨシ原環境で49種、水田・畑環境で54種、斜面環境で44種記録されたが、これらに比べて当調査地域では水面環境に次いで出現種数が多く、複合的な植生が含まれる調査地の環境の多様性を反映している。

出現種を個別に見ると、シロハラ、アカハラ、シメ、カケスなど比較的樹林地を好む種とアオジ、カシラダカ、ホオジロ、オオジュリンなどヨシ原や草地を好む種が混在している。

また、スズメやヒヨドリが年間通じて優占種になっており、これは調査地が市街地に隣接している影響と考えられる。

2001年8月にサンコウチョウが確認され、調

査地が、樹林性の渡り鳥の渡りの中継地として利用されていることが示唆された。

また、2001年11月から翌年3月にかけて、アカゲラが断続的に観察された。アカゲラは我孫子市内では2例目の公式な観察例であり（我孫子市鳥の博物館 2002）、調査地がアカゲラが越冬できる樹林地として、市内では数少ない環境条件を備えていることが示された。

オオタカやサシバなど小動物を餌とする猛禽類が上空を通過したり樹林上で観察され、季節によっては、調査地がこれら猛禽類の行動圏内に入っていることが示された。

谷津田の中央を流れる水路付近には、周年サギ類、カワセミ、ハクセキレイが観察され、手賀沼という広域水面に隣接する調査地の環境を特徴づけていた。

なお、調査地の谷底低地は水田耕作地であるが、水田環境を好むヒバリやシギ・チドリの仲間がほとんど出現しなかった。調査地が斜面に囲まれた狭い谷地形であることや放棄水田が多く広い水田が少ないためと考えられる。

また、放棄水田は、草地やヨシ原になっているが、こうした環境を好むセッカやオオヨシキリも周辺地域に比べて少なく、これらも谷地形の鳥相の特徴を示しているものと考えられる。

## 要 約

1 2000年4月から2003年3月までの3年間にわたり、千葉県我孫子市の岡発戸・都部地区の谷津田において、月1回の鳥類のセンサス調査を行った結果、9目25科60種の鳥類が出現した。

2 出現個体数、種数ともに、冬期に多く夏期に少なかった。

3 通年の優占上位10種は、スズメ（22%）、ヒヨドリ（12%）、アオジ（8%）、ムクドリ（7%）、ホオジロ（7%）、カシラダカ（7%）、ツグミ（4%）、キジバト（4%）、メジロ（3%）、ハシブトガラス（3%）であった。

4 優占種は季節により変動し、冬期の優占種は、アオジ（16%）、スズメ（14%）、カシラダカ（13%）、ホオジロ（8%）、メジロ（5%）、夏期には、スズメ（27%）、ムクドリ（20%）、ヒヨドリ（9%）、ホオジロ（8%）、ハシブト

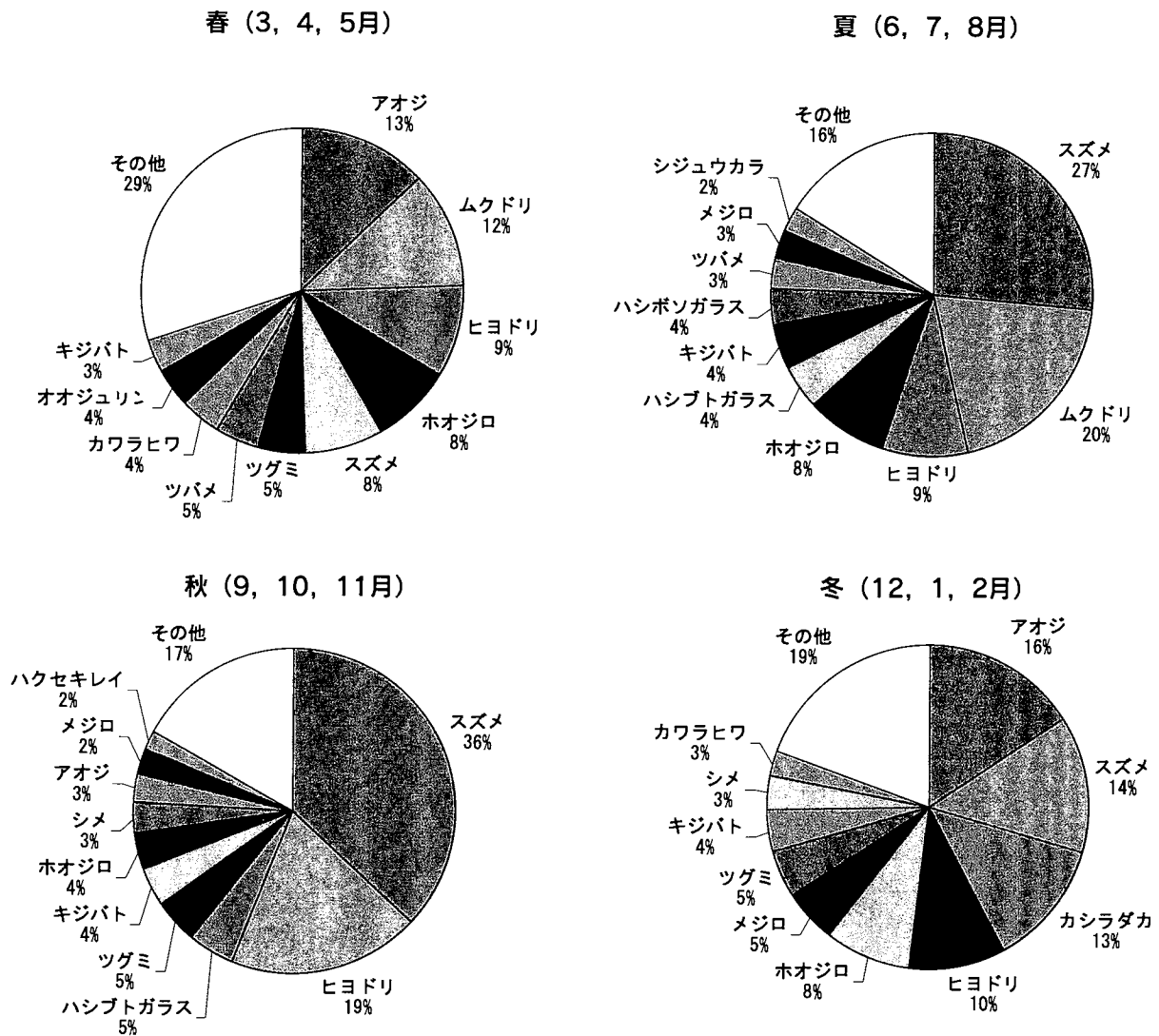


図4 季節別の優占種

ガラス (4%) であった。

5 調査地には、斜面林、耕作水田、放棄水田、水路など多様な環境要素が含まれているため、単一の環境別に行った過去の同様の調査に比べ、出現種数が多かった。

6 アカゲラやサンコウチョウなど、我孫子市周辺では記録の少ない樹林性の鳥類が確認されたほか、オオタカやサシバもなど生態的地位の高い猛禽類も出現したことから、調査地域周辺は市内に残された自然度の高い地域であることが示唆された。

#### 引用文献

- 我孫子市 2002 谷津ミュージアム事業構想  
 我孫子市 2001 我孫子市環境基本計画  
 我孫子市鳥の博物館 2002 岡発戸の谷津田の鳥と自然 (資料編)  
 武内和彦ほか 2001 里山の環境学 東京大学出版会

付表1 岡発戸・都部の谷津田鳥類センサス結果 (2000年度)

和名	2000年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2001年 1月	2月	3月	計
ゴイサギ		4			5	2							11
アマサギ			17										17
ダイサギ					1				1	1			3
チュウサギ		10	1	1									12
コサギ		3											3
カルガモ	2	3	2				2	7					16
オオタカ					1					1	1		3
サシバ						1							1
チョウゲンボウ								1					1
キジ	4	4	6				1	2	4	1		2	24
タシギ	1												1
キジバト	4	2	2	3	8	2	9	8	9	7	5	5	64
カッコウ		1											1
ホトトギス			1										1
カワセミ			1										1
コゲラ	1					1		2	1	8	3	1	17
ツバメ	5	24	3	7									39
ハクセキレイ	5	1	3			1	4	7	4	1	1	3	30
セグロセキレイ	4							1	1				6
ピンズイ								1	1				2
タヒバリ									1				1
ヒヨドリ	15	17	15	8	2	4	18	21	19	13	10	17	159
モズ	4	1		1		5	4	3	4	3	3	3	31
ジョウビタキ									1	2			3
アカハラ										1	1	2	4
シロハラ									1	1		1	3
ツグミ	5							1	2	3	15	8	34
ウグイス	4	1	4	2		1	1	4	4	5	2	6	34
オオヨシキリ		6											6
セッカ	1	6		1									8
シジュウカラ			1						1	1			3
メジロ	3	2	7	1				4	5	9	6	2	39
ホオジロ	7	5	23	9	2	2	8	7	24	37	16	28	168
カシラダカ								1	2	59	1	12	75
アオジ	20	2						8	14	35	57	28	164
クロジ									1				1
オオジュリン									2	1			3
カワラヒワ	3	7		1				1	3	1	2	11	29
ベニマシコ								3	2		2		7
シメ	4												4
スズメ	12	13	13	6	30	86	26	154	9	31	34	15	429
ムクドリ	33	10	67	11	1		3		1	6		8	140
オナガ		1											1
ハシボソガラス	4	5	6	11		2	4	2	5	1	1		41
ハシブトガラス	5	1	2	1	5	18	4	7	2		3	1	49
コジュケイ				1			2						3
カワラバト(ドバト)							1	18					19
シロハラorアカハラ	1							1	2				4
ジョウビタキorルリビタキ								1					1
ハシボソガラスorハシブトガラス		1	1	1		1							4
不明					5			1	2	2	1	2	13
総個体数	147	130	175	64	61	126	87	266	128	230	164	155	1,733
出現種数	22	23	18	14	10	12	14	22	27	23	18	18	47

付表2 岡発戸・都部の谷津田鳥類センサス結果 (2001年度)

和名	2001年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2002年 1月	2月	3月	計
ゴイサギ			1			3							4
ダイサギ				1		2	1	1					5
チュウサギ		1											1
コサギ					1								1
アオサギ									1				1
カルガモ	1	5											6
オオタカ						1			1	1	1		4
サシバ					1								1
キジ	6	3	1		4			2		2		1	19
タゲリ									1				1
キジバト	1	3	3	3	7	5	2	11	15	10	5	10	75
カッコウ		1											1
カワセミ						1							1
アリスイ	1												1
アカゲラ								1		1		1	3
コゲラ	3	4	4	1	1		3	1	2	1		2	22
ツバメ	6	3	1	6	1								17
キセキレイ							1						1
ハクセキレイ	1	1				5	6	5	4	2	1	1	26
セグロセキレイ								1	1		1	1	4
ヒヨドリ	6	11	10	7	3	37	45	48	27	8	5	14	221
モズ	1	2			1	4	5	5	4	2		2	26
トラツグミ									1				1
アカハラ								1	1		1	1	4
シロハラ									6	4		3	13
ツグミ	14						3	8	10	7	4	3	49
ウグイス	7	1	5	1			2	8	8	5	1	6	44
セッカ		5	2	3	2								12
サンコウチョウ					1								1
エナガ												7	7
シジュウカラ					5	1	7	3	2	2	13	8	41
メジロ	3		1	7	1		12	10	18	14		4	70
ホオジロ	5	7	4	8	6	4	7	14	16	15	8	13	107
カシラダカ								3	19	16	25	1	64
アオジ	23						10	19	17	35	10	25	139
オオジュリン												7	7
カワラヒワ	2	1	1	2		4	1	9	6	12	1	9	48
マヒワ										3		5	8
ベニマシコ							2					5	7
シメ							25	17	13	8	5	2	70
スズメ	10	5	39	27	37	32	108	19	17	4	23	8	329
ムクドリ	27	7		9			2	3	4			15	67
カケス							4	7	3			1	15
ハシボソガラス	6	5	2	4		1		1		1	4	3	27
ハシブトガラス	1	2	4	6	9	10	8	2	3	3	2	2	52
コジュケイ		1	1	1			2					1	6
カワラバト(ドバト)							2						2
シロハラorアカハラ								5	1		1		7
ジョウビタキorルリビタキ								1					1
不明			1		2		3						6
総個体数	124	68	80	86	82	110	261	205	201	156	111	161	1,645
出現種数	19	19	15	15	15	14	22	24	25	22	17	29	47



付表3 岡発戸・都部の谷津田鳥類センサス結果 (2002年度)

和名	2002年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2003年 1月	2月	3月	計
アマサギ			1										1
ダイサギ								2					2
チュウサギ					1								1
コサギ	1			1	1		2						5
アオサギ										1			1
カルガモ	3	1	3					3					10
オオタカ	1												1
ノスリ										1			1
サシバ						4							4
キジ	2	2		1	1		2	3	1		2	1	15
コチドリ			1										1
タゲリ	1												1
クサシギ									2				2
キジバト	3	5	1	5	5	6	5	13	1	6	11	4	65
カワセミ		1		1			1						3
アリスイ								1					1
コゲラ	1	2	2	8		2	2		3	1	5	1	27
ツバメ	8	5	1	6	3								23
キセキレイ							1						1
ハクセキレイ	3	1	2			1	1	4	3	4	5	6	30
セグロセキレイ								4	2	2	1	3	12
ビンズイ										2			2
タヒバリ								1	1				2
ヒヨドリ	8	7	10	10	10	3	85	53	63	13	7	6	275
モズ	1	3		1			5	3	1	4	5	4	27
ジョウビタキ								2					2
アカハラ									1	1	1	3	6
シロハラ										3	3		6
ツグミ	9							63	8	17	15	13	125
ウグイス	2	5	2	1				2	7	2	3	5	29
オオヨシキリ		1											1
セッカ		2	2	2	1	1							8
エナガ											3		3
シジュウカラ			9	4	1	8	4	1	4	2	1	1	35
メジロ	4	5	1	6		1	6	7	16	11	10		67
ホオジロ	4	4	6	6	5		6	12	4	10	12	16	85
カシラダカ								3	28	51	13		95
アオジ	15							8	50	17	28	28	146
オオジュリン											3	36	39
カワラヒワ	1	2	7	4	1		3	11	14	4	1	8	56
シメ	5							10	8	9	10	5	47
スズメ	6	11	9	14	51	74	7	98	70	23	17	8	388
ムクドリ	4	22	26	1	57			9	6	8	14	7	154
カケス	2						1						3
ハシボソガラス			3		5			3	2	1			14
ハシブトガラス	2	3	1	5	5	6	16	5	2	3	6	2	56
コジュケイ		1						1	1				3
ホオジロ科sp.								1					1
シロハラorアカハラ	1							3	6	3	3	3	19
ハシボソガラスorハシブトガラス			1			3					1		5
総個体数	87	83	88	76	147	109	147	326	304	199	180	160	1,906
出現種数	22	19	18	17	14	10	16	25	24	24	23	19	47

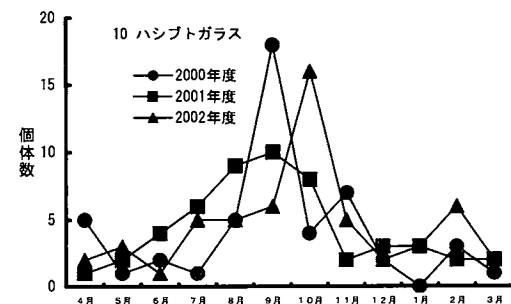
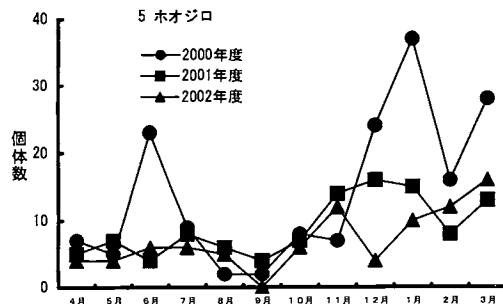
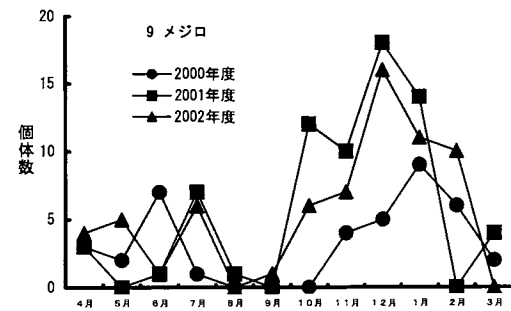
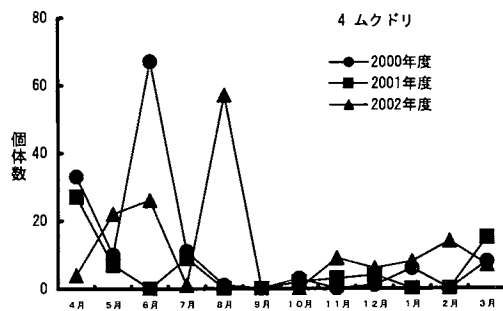
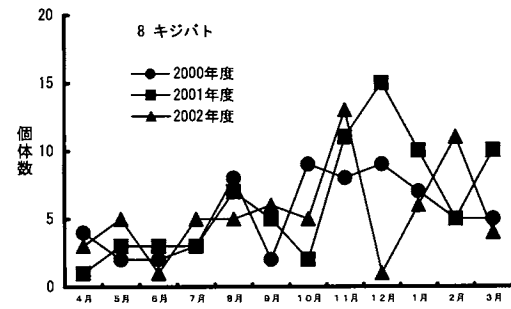
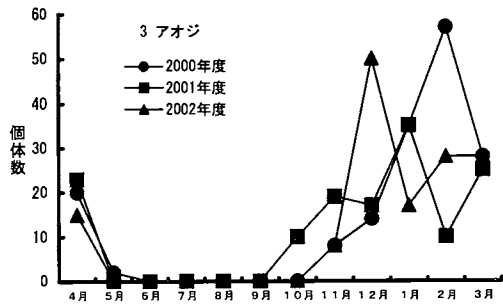
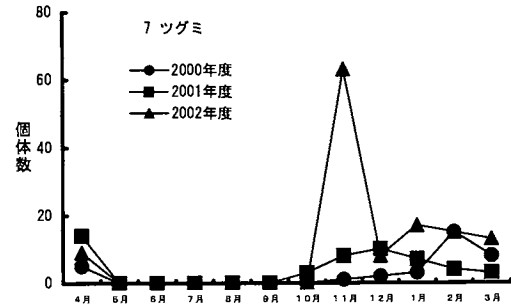
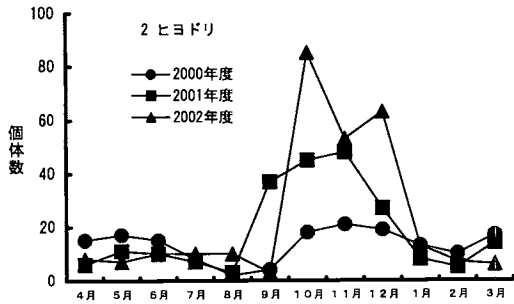
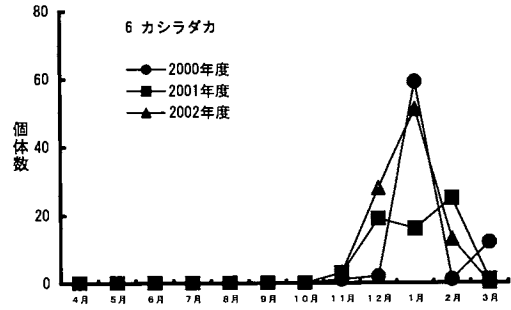
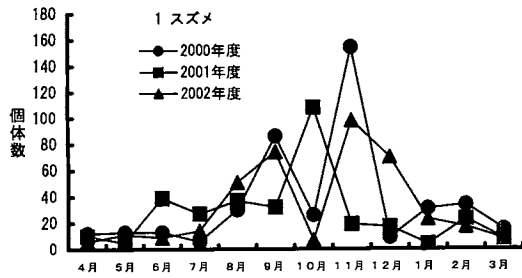
付表4 岡発戸・都部の谷津田鳥類センサス結果（2000年度-2002年度の合計）

和名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
ゴイサギ		4	1		5	5							15	
アマサギ			18										18	
ダイサギ				1	1	2	1	3	1	1			10	
チュウサギ		11	1	1	1								14	
コサギ	1	3		1	2		2						9	
アオサギ									1	1			2	
カルガモ	6	9	5				2	10					32	
オオタカ	1				1	1			1	2	2		8	
ノスリ										1			1	
サシバ					1	5							6	
チョウゲンボウ								1					1	
キジ	12	9	7	1	5		3	7	5	3	2	4	58	
コチドリ			1										1	
タゲリ	1								1				2	
クサシギ									2				2	
タシギ	1												1	
キジバト	8	10	6	11	20	13	16	32	25	23	21	19	204	
カッコウ		2											2	
ホトトギス			1										1	
カワセミ		1	1	1		1	1						5	
アリスイ	1							1					2	
アカゲラ								1		1		1	3	
コゲラ	5	6	6	9	1	3	5	3	6	10	8	4	66	
ツバメ	19	32	5	19	4								79	
キセキレイ							2						2	
ハクセキレイ	9	3	5			7	11	16	11	7	7	10	86	
セグロセキレイ	4							6	4	2	2	4	22	
ビンズイ								1	1	2			4	
タヒバリ								1	2				3	
ヒヨドリ	29	35	35	25	15	44	148	122	109	34	22	37	655	
モズ	6	6		2	1	9	14	11	9	9	8	9	84	
ジョウビタキ								2	1	2			5	
トラツグミ									1				1	
アカハラ								1	2	2	3	6	14	
シロハラ									7	8	3	4	22	
ツグミ	28						3	72	20	27	34	24	208	
ウグイス	13	7	11	4		1	3	14	19	12	6	17	107	
オオヨシキリ		7											7	
セッカ	1	13	4	6	3	1							28	
サンコウチョウ					1								1	
エナガ											3	7	10	
シジュウカラ			10	4	6	9	11	4	7	5	14	9	79	
メジロ	10	7	9	14	1	1	18	21	39	34	16	6	176	
ホオジロ	16	16	33	23	13	6	21	33	44	62	36	57	360	
カシラダカ								7	49	126	39	13	234	
アオジ	58	2					10	35	81	87	95	81	449	
クロジ									1				1	
オオジュリン									2	1	3	43	49	
カワラヒワ	6	10	8	6	2	4	4	21	23	17	4	28	133	
マヒワ										3		5	8	
ベニマシコ								2	3	2	2	5	14	
シメ	9							25	27	21	17	15	7	121
スズメ	28	29	61	47	118	192	141	271	96	58	74	31	1,146	
ムクドリ	64	39	93	21	58		5	12	11	14	14	30	361	
カケス	2						5	7	3			1	18	
オナガ		1											1	
ハシボソガラス	10	10	11	15	5	3	4	6	7	3	5	3	82	
ハシブトガラス	8	6	7	12	19	34	28	14	7	6	11	5	157	
コジュケイ		2	1	2			4	1	1			1	12	
カワラバト（ドバト）							3	18					21	
ホオジロ科sp.								1					1	
シロハラorアカハラ	2							9	9	3	4	3	30	
ジョウビタキorルリ								2					2	
ハシボソガラスorハシブト		1	2	1		4		3	1	2	1	2	19	
不明			1		7								9	
総個体数	358	281	343	226	290	345	495	797	633	585	455	476	5,284	
出現種数	27	26	24	21	22	19	27	33	36	31	26	29	60	

付表5 岡発戸・都部の谷津田鳥類センサス諸元

	調査年月日	調査開始時間	調査終了時間	天候	調査者	
2000年	4月19日	9:55	12:12	曇→晴	時田、斉藤、竹牟禮	
	5月19日	9:45	11:30	曇	時田、竹牟禮	
	6月16日	9:15	11:35	晴/曇	斉藤、竹牟禮	
	7月12日	9:29	11:23	晴	斉藤、竹牟禮	
	8月29日	9:40	11:34	晴	時田、竹牟禮、佐野、 木田、菊池、平野	
	9月20日	8:55	10:49	晴	斉藤、竹牟禮	
	10月18日	9:50	11:40	曇	時田、竹牟禮	
	11月9日	9:18	12:35	曇	斉藤、竹牟禮	
	12月13日	10:05	12:09	晴	時田、竹牟禮	
	2001年	1月17日	9:17	10:50	晴	時田、斉藤
		2月21日	9:24	11:10	晴	時田、斉藤
		3月14日	9:38	11:20	晴	時田、斉藤
4月12日		9:15	11:10	曇→晴	時田、塩田	
5月16日		9:09	11:00	曇→雨	斉藤、塩田	
6月27日		9:12	10:48	晴	時田、塩田	
7月17日		9:20	10:28	晴	斉藤	
8月28日		9:10	11:16	曇	斉藤、塩田	
9月28日		9:38	11:22	雨	斉藤	
10月31日		9:10	11:37	晴	斉藤	
11月29日		9:20	11:41	晴	斉藤	
12月19日		9:24	11:10	晴	斉藤	
2002年	1月30日	9:41	11:10	晴	斉藤	
	2月19日	9:50	11:15	晴	斉藤	
	3月12日	9:33	11:14	晴	斉藤	
	4月17日	8:55	10:52	曇	斉藤、塩田	
	5月15日	9:24	10:45	晴	斉藤、塩田	
	6月19日	9:26	11:20	晴	斉藤、塩田、中野	
	7月11日	9:16	11:16	晴	斉藤、塩田	
	8月16日	9:44	11:35	曇→晴	斉藤、塩田	
	9月11日	9:21	11:10	晴	斉藤、塩田、高橋	
	10月10日	9:14	11:30	晴	斉藤、塩田	
	11月20日	9:26	11:59	曇	斉藤、塩田	
	12月11日	9:23	11:40	晴	斉藤、塩田	
2003年	1月22日	9:14	10:59	晴	斉藤、塩田、高橋	
	2月19日	9:13	11:51	晴	斉藤、塩田	
	3月18日	9:28	11:44	晴	斉藤、塩田	

(資料) 岡発戸・都部谷津田優占上位20種の個体数の月変化 (1)





## Bird census report at the rice field of Okahotto-Itchibu valley in Abiko city (2000-2003)

Yasuyuki Saito<sup>1</sup>, Ken-ichi Tokita<sup>1</sup>, Izumi Sioda<sup>1</sup> & Etuko Takemure<sup>2</sup>**KEY WORDS:** avifauna, census, rice field, Okahotto, Ichibu, Abiko, Chiba

We conducted bird census at the rice field of Okahotto-Ichibu valley once in every month for three years from April, 2000 to March, 2002. Consequently, we identified 60 species in 25 families and 9 orders.

Both the number of individuals and the number of species were the maximum in winter, and the minimum in summer.

Through the year, Tree Sparrow, Brown-eared Bulbul, Black-faced Bunting, Grey Starling, Siberian Meadow Bunting, Rustic Bunting, Dusky Thrush, Rufous Turtle Dove, Japanese White-eye and Jungle Crow were dominant in this order.

In winter, dominant species are Black-faced Bunting, Tree Sparrow, Rustic Bunting, Siberian Meadow Bunting, Brown-eared Bulbul in this order. In summer, Tree Sparrow, Grey Starling, Brown-eared Bulbul and Jungle Crow are dominant in this order.

There are various environments in this investigation ground, accordingly many kinds of birds appeared in this field compared with peripheral areas which have simple environmental elements.

1 Abiko City Museum of Birds. 234-3 Kohnoyama, Abiko, Chiba, 270-1145, Japan

2 (formerly) Abiko City Museum of Birds